

親子資源回収 刈谷市立住吉幼稚園(愛知県刈谷市)

幼稚園でできる資源の再利用

環境保護が重要視されている中、幼児が幼児なりに環境に目を向け、資源を大切にすることを体験をとおして感じ取って欲しいと願っている。それには、保護者も巻き込んで資源活用の活動をする中で、環境保護の大切さを感じたり、ものを大切に扱ったりする心が養われると考えている。

- 事例 廃材を使った親子活動(ペットボトルのミニガーデン) -

ペットボトルで春咲きの苗を育て、卒園式に活用しようと考えた。2・3個の見本を準備し、各家庭に協力してもらい、それぞれペットボトル鉢を用意した。親子でそれにパンジー・ビオラ・クリサンセマム・サクラソウを選んで植えた。3月中旬にはきれいに花が咲き、卒園式を可愛く、華やかに飾ることができた。

(考察)

- ・ 親子で毎日世話をしたり、卒園式に向けての開花を楽しんだりし、より卒園式が楽しみにできた。
- ・ それぞれ形や絵の違うペットボトルの植木鉢を見比べたりして親子で楽しんだ。
- ・ また、幼児は自分のものという愛着心ももて、大切に世話をしていた。
- ・ 卒園式の後、ペットボトルの植木鉢を道路沿いのフェンスに掛けておくと、通行人が足を止めて見ていたり、他の園でも親子活動で取り組みたいとわざわざ見学に来たりして、この取り組みが地域に向けてのアピールにつながった。

卒園式に飾りました



- 事例 幼児による園外のゴミ拾い -

各家庭に案内と回収袋を配布し、親子で道路のゴミを拾い、町をきれいにする意識を高めた。そして、集めたゴミを幼児が園で、燃やせるゴミ・不燃物・ガラス類・金属類等で分別した。その時の会話や感想として

子どもは・タバコがいっぱいだからだめだね。

- ・ こんなところにゴミ捨てちゃあいかな。
- ・ ゴミを資源回収袋に入れることを楽しんでいた。
- ・ ゴミを見つけて拾うことが「いいことをしている」という感覚のようだ。
- ・ 活動後、ゴミを見つくと拾うようになった。

親は

- ・ いざ、ゴミを拾ってみると公園や道路にタバコの吸殻が大変多いのに驚いた。
- ・ 子どもと一緒にゴミ拾いをする中で、子どもなりに「ゴミは捨てちゃいけない」と実感したことを感じ取れた。
- ・ 家庭で話題にし、父親に「タバコを捨てないように」促した。

(考察)

- ・ 公園や道路にタバコの吸殻が大変多いことに親子で気付くことができた。
- ・ 「ゴミを捨ててはいけない」という意識が高まった。
- ・ 資源回収袋を準備したことでゴミを拾う意欲が増した。
- ・ 今年、初めての試みだったが、回数を重ねることでもっと意識を高めたい。

- 事例 地域を巻き込んだ資源回収活動 -

昨年まで、PTA 活動としてアルミ缶・新聞紙・雑誌の回収を隔月で行っていた。環境保護が重要視され、資源再利用が当たり前になっている中、本年度はこの活動を毎月実施することにした。本園の100m南には、刈谷総合病院がある。そこでは、毎日、膨大なゴミが排出される。そこで、本園の資源回収日に合わせて病院の資源回収を依頼したところ、快く引き受けてくださり、合同で実施することになった。

(考察)

- ・ 登園時に幼児は保護者と一緒に新聞紙や牛乳パック・アルミ缶等を持ってきて、母と「これは、こっちな」「この紙はトイレトペーパーになるんだよ」など会話しながら楽しそうにそれぞれ分別する。幼児は捨てる資源が再利用可能であることを幼いうちから学ぶことができる。
- ・ 幼児が分別するとPTAのボランティアの方から「ありがとうね」「お手伝い、偉いねえ」など声を掛けられることで幼児の顔も親の顔も笑顔になる。認めてもらう喜びと貢献の喜びを幼児なりに感じている。こういった経験を繰り返す機会を作ることが大事である。
- ・ 刈谷総合病院とは、すぐ近くにあっても今まで交流の接点がなかった。これをきっかけに今後、幼児の発達をふまえた経験ができるように交流の工夫をしたい。



ここにもあったよ



燃えるゴミはこっちな

総合病院の職員が協力



みどころ

子どもたちが様々な素材を利用して創造や表現を楽しむ中で、ものの特徴や性質などを感じたり大切に扱ったりする姿が見られます。この「資源の再利用」の活動でも、ものの特長を生かして利用したり、形を変えて利用したり、ゴミなのか資源なのか判断したりして、ものを大切にすることを身につけることの大切さを味わうことに結びつき、人とのつながりの中で「科学する心」が育まれました。